

市内で観察できる動植物（蔵王）



ザオウアザミ

<キク科>

蔵王の亜高山帯アオモリトドマツ林の日当たりの良い草地に多いアザミで、1999年9月国立科学博物館報で門田裕一博士が発表し、ザオウアザミの名前が付けました。蔵王山の固有種で、自生地は限られます。

（花期8月 山形県版絶滅危惧Ⅱ類）



ヨツバヒヨドリ

<キク科>

亜高山帯を中心に自生するキク科の植物で、ヒヨドリバナによく似ていますが、葉が輪生する事で区別が付きまます。渡りをする蝶として有名なアサギマダラが吸蜜する植物としても有名です。中央高原は特に多いようです。

（花期8月～9月）



アサギマダラ

<タテハチョウ科>

渡りをする蝶として知られています。8月中旬頃に蔵王中央グレンデのヨツバヒヨドリの花に多数の個体が集まってきます。この時期にアサギマダラにマーキングをして放し、南下する渡りの調査をしています。

（出現時期8月上旬～9月上旬）



フジドリシジミ

<シジミチョウ科>

日本特有の蝶で、幼虫はブナの新葉を食べて育ちます。成虫は7月に出現し、オスは夕方にブナの梢の高い所を金青緑色のハネを輝かせながら飛翔します。ブナ帯を代表する昆虫といえます。



チョウカイヒメクロオサムシ

＜オサムシ科＞

蔵王では熊野岳や刈田岳の山頂付近にのみ生息しています。森林限界を超えた過酷な環境に適応した特殊な種です。体長約2cmの小さなオサムシで、主に夜に行動します。昼は石の下などに潜りじっとしています。



「山形の自然」より

カモシカ

＜ウシ科＞

里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは1～2頭で生活しています。食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄養源ですが、農作物や果実などを食害することもあります。国の天然記念物で、山形県の県獣です。



「山形の自然」より

ニホンザル

＜オナガザル科＞

普通は群れで目撃されることが多く、まれに1、2頭の離れザルを見ることがもあります。山形市では奥羽山系の低山帯の森林が群れの主な遊動域ですが、しばしば農耕地にも出没して農作物に被害を与えることがあります。



「山形の自然」より

ハクビシン

＜ジャコウネコ科＞

一見タヌキやイタチに似ていますがジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集落周辺で分布域を広げ個体数を増やして定着しています。畑作物や果実類を食害することがあります。



アオゲラ

＜キツキ科＞

平地から山地の落葉広葉樹林に生息しています。オスは頭全体が赤色で、メスは後頭部のみ赤色です。口笛に似たよく通る声で、「ビョービョービョー」と鳴きます。枯れ枝などをたたき、ドドド…とドラミングもします。昆虫や幼虫を餌としています。（留鳥・漂鳥）



写真提供：築川堅

コマドリ

＜ツグミ科＞

夏鳥として渡来し繁殖します。亜高山帯の針葉樹林からその下の落葉広葉樹林の、下草にササの繁った所で見られます。さえずりは、「ヒン カラカラカラララ…」と大声で鳴きます。地上で昆虫などを食べます。（夏鳥）



写真提供：築川堅

メジロ

＜メジロ科＞

目の周囲の白いアイリングがよく目立ちます。さえずりは「チーチーチュルチュル チリツルツル」と長く鳴きます。「長兵衛 忠兵衛 長忠兵衛」と聞きなしをします。平地から山地に生息し、花の蜜や果実を食べます。（留鳥・漂鳥）



「山形の自然」より

ホシガラス

＜カラス科＞

頭部と翼を除く体全体は、暗褐色の地に白い斑点が沢山並んでいます。亜高山帯の針葉樹林帯に生息していますが、冬には低山帯にまで下りるのもあります。しわがれた声で「ガーガー」と鳴きます。木の実、昆虫などを食します。

（留鳥）